

共用品推進機構だより 2016年05月27日(08)

目次

(38) 共用品推進機構関連記事

- ▽「日本のルール、世界に トイレの水を流すボタンの位置／星川安之」
- ▽「目が見えない・見えにくい私だから考えついた
『とっておきのアイデアコンテスト』募集開始のお知らせ」
- ▽「『医療機関に関する良かったこと調査報告書』を公開しました」

(39) 製品関連記事

- ▽「療育・自立支援用『heart bridge smock(ハートブリッジスマック)』
／東京リハビリテーションサービス」

(40) 行政関連記事

- ▽「都道バリアフリー化 24年度までに180km 工事／東京都」

(41) その他、各種関連記事

- ▽「迷い、笑い、明日へ 脳性まひ長女との日々 本に」
- ▽「まず声かけ 望む方法尋ねて」

(42) 新刊紹介

- ▽『笑顔がはじけるスパーク運動療育 発達障害の子の脳をきたえる』
- ▽『発達障害がある人のナラティブを聴く
「あなた」の物語から学ぶ私たちのあり方』
- ▽『耳が喜ぶ補聴器選び 2016-2017 購入までの流れが丸わかり!』
- ▽『日本でいちばん温かい会社 働く幸せを感じて生きていますか?』

(38) 共用品推進機構関連記事

▼「日本のルール、世界に トイレの水を流すボタンの位置／星川安之」

2015年12月、国際標準化機構（ISO）から日本提案の規格が制定されました。規格は、「公共トイレにおける便房内操作部の形状、色、配置及び器具の配置」。きっかけは、日本国内の目の不自由な人たちの声でした。

はじめの水洗は水の入ったタンクが上にあり、紐を引くと水が流れ、便器を清掃する構造でした。次に、タンクを降ろし、付随しているレバーを操作する仕組みとなりました。しかし、技術進歩により、タンクが壁の中に消えてしまったからは、水を流すボタンの位置がバラバラになりました。目の不自由な人にとって、ボタンを探すことが非常に困難となり、「何十分も探した」「床まで探した」という人もいることが分かりました。

そこで関係者で協議し、検証を繰り返し、「公共トイレにおいて、水を流すボタンの位置を、紙巻器の上に設置する」という日本工業規格（JIS）が2007年に制定されました。しかし、困っているのは日本の目の不自由な人だけではありません。そこで、日本は国際的にも広げることをISOに提案したところ、国際規格としても制定されました。

不便さを便利さに変えるニーズには国境がないことが分かります。
（エルダリープレスーシニアライフ版ー 2016年5月号より抜粋）

▼「目が見えない・見えにくい私だから考えついた

『とっておきのアイデアコンテスト』募集開始のお知らせ」

現在、世の中にある製品の多くは、障害のない人たちが考え、作られています。そのため、障害のある人達にとっては、使いづらい「製品」が存在しています。できあがった製品を改良することは、多くの時間と費用がかかるため、改善されるケースはそれほど多くはありません。

それを解決する方法の一つとして、障害のある人たちによるアイデアコンテストを実施することにしました。

募集テーマ：日常生活で使うもの（非日常生活で使うものも含む。）

ジャンルは問いませんが、目が見えない・見えにくい私だから考えついた製品（モノ）に限ります。こんなモノがあれば、今不便なことが便利になる、もっとこんなことができるようになるといったアイデアを募集します。

応募方法：メール、郵送、FAXのいずれか

募集期間：6月1日～9月5日（当日消印有効）

応募資格：盲学校の部：盲学校に通う18歳までの児童・生徒

（学級・学年のチーム、家族との応募も可）

一般の部：視覚に障害のある人や、一般校に通う視覚に障害のある18歳までの児童・生徒など。

審査方法：福祉、デザイン、産業分野の専門家により、審査を行います。

応募の際の記載事項：

1. アイディアの名称、
2. 対象者、
3. アイディアの詳しい内容、
4. アイディアのアピールポイント、
5. 氏名、
6. 年齢（学年）、
7. 性別、
8. 住所、
9. 所属（学校・所属機関名）／職業、
10. 電話番号、
11. ファックス番号、
12. メールアドレス

結果発表、表彰：

1. 盲学校の部（最優秀賞・優秀賞・入賞）
2. 一般の部（最優秀賞・優秀賞・入賞）

視覚障害者関連のイベントと連動し、関係するイベントで、表彰、展示を行います。入選者には追ってご連絡します。表彰式は、2016年11月初旬に、東京都墨田区で開催される「サイトワールド2016」で行う予定です。

詳しい内容は以下 URL より

コンテスト概要 [PDF 版]

http://www.kyoyohin.org/ja/research/pdf/ideacontest_1.pdf

応募用紙 [PDF 版]

http://www.kyoyohin.org/ja/research/pdf/ideacontest_2.pdf

応募要綱 [テキスト版]

<http://www.kyoyohin.org/ja/research/pdf/ideacontest.txt>

応募要綱 [BES 版]

<http://www.kyoyohin.org/ja/research/pdf/ideacontest.BES>

問い合わせ・応募先：

※アイディアの送付とお問い合わせは、どちらの団体でも受け付けています。

公益財団法人共用品推進機構 とっておきのアイディアコンテスト係

〒101-0064 東京都千代田区猿楽町 2-5-4 OGA ビル 2F

TEL：03-5280-0020 FAX：03-5280-2373

E-mail：jimukyoku@kyoyohin.org

社会福祉法人日本点字図書館 としておきのアイディアコンテスト係
〒169-8586 東京都新宿区高田馬場 1-23-4
TEL : 03-3209-0241 (代表) FAX : 03-3204-5641
E-mail : nitten@nittento.or.jp

▼ 『医療機関に関する良かったこと調査報告書』を公開しました

機構では、前身の市民団体、財団法人の時代を含め、約 20 年間、障害のある人及び高齢者等の日常生活における不便さ調査を実施し、報告書としてまとめました。

平成 27 年度のテーマ「医療機関に関する良かったこと調査」は、医療機関だけでなく、多くのサービス機関や公的機関でも役立つとのご意見が多くありましたので、この度、ウェブで一般公開することに致しました。

以下 URL よりご覧いただけます。

共用品推進機構 - 良かったこと調査

http://www.kyoyohin.org/ja/research/report_goodthings.php

以下ニュースリリース [PDF 版]

http://www.kyoyohin.org/ja/research/pdf/newsrelease_report_of_medicalinstitution2016.pdf

共用品推進機構公式サイト

<http://www.kyoyohin.org/>

(39) 製品関連記事

▼ 「療育・自立支援用『heart bridge smock (ハートブリッジスマック)』
／東京リハビリテーションサービス」

療育・自立支援用スマック『heart bridge smock(ハートブリッジスマック)給食の時間等に着用する「スマック」に、知的障がい児(者)の自立・発達支援の促進や、肢体不自由児(者)の生活利便生の向上の為に有効な留め具(ボタン・ファスナー等)を使用。留め具を段階的に学習しやすくする等の工夫を施しています。

マジック、スナップボタン、ループ、ボタン、ファスナー、ユニバーサル

ボタンの6つの仕様があり、発達や成長の段階に応じた指先のトレーニング用としての知育機能と、生活利便性の向上を促す為の補助機能を備えています。

知的障がい児をもつ親としての実体験を基に、作業療法士による専門的なアドバイスを取り入れて開発した商品。実際に使用した障がい児の保護者や特別支援学校の先生方からの意見も取り入れ、ボタンやファスナーの形状等に工夫を施しています。

<http://tokyorehabili-heartbridgeproject.jp/>

※heart bridge smock は平成28年4月に(株)スタンダードから事業譲渡されました。

(平成26年度 東京都トライアル発注認定制度カタログより抜粋)

(40) 行政関連記事

▼「都道バリアフリー化 24年度までに180km 工事／東京都」

都は2020年東京五輪・パラリンピックや都民の高齢化に備え、都道のバリアフリー化を進める。車いす同士のすれ違いや、方向転換が容易なように歩道の幅2m以上を確保。視覚障害者のため、歩道と車道の段差を標準2cmとし、点字ブロックの設置も進める。計180kmの工事を、24年度までに終わらせる。

(東京新聞 5月13日24より抜粋)

(41) その他、各種関連記事

▼「迷い、笑い、明日へ 脳性まひ長女との日々 本に」

福満美穂子さんが、脳性まひで寝たきりの長女華子さんとの日常を一冊の本にまとめた。医療の進歩や支援態勢の広がりや、地域で暮らす重い障害の子が増える中、「医療ケアを受けながら生きる子の存在を知ってほしい」との思いを込めた。

本は「重症児ガール ママとピョンちゃんのきのうきょうあした」(ぶどう社)。「ピョンちゃん」とは華子さん。常に行動を共にしているので、ア

ニメ「ど根性ガエル」で主人公のシャツにいるカエルのピョン吉にちなんだ呼び名だ。

本には親の気持ちの葛藤を率直に吐露した。日本てんかん協会支部の機関紙に連載した文章に加筆した。

(東京新聞 5月18日18面より抜粋)

▼「まず声かけ 望む方法尋ねて」

困っている様子の障害のある人を見かけた時、手助けしたいけれどどうすればいいかわからない。そんな経験はないでしょうか？基本的な声のかけ方や心構えを紹介します。

どう声をかけていいかわからないという人に勧めるのは、「お手伝いすることはありますか？」とまず相手に声を掛けること。必要な手助けは人によってさまざま。何に困っていて、どのようにすればいいかを聞いてみよう。思い込みで動くとき車の操作などの際に危険を伴うこともある。

東京都心身障害者福祉センターのリーフレット「障害の理解のために」も参考になる。どんな時に困っているのかや、対応の仕方をイラスト入りで解説。精神障害や高次機能障害なども含め、7種類あり、インターネットでダウンロードできる。

各団体のホームページや出前講座などでも手助けの方法を学べる。横浜市障害者社会参加推進センターの「心と手を貸してください」や、香川県社会福祉協議会の「待で障害者に会ったら」などを参考に。横浜市社会福祉協議会は「やってみよう！福祉教育！」で接し方なども紹介。障害のある人らが講師の出前講座もある。ネットで講座のシナリオの例なども見られる。

(朝日新聞くらしの扉 5月22日33面より抜粋)

(42) 新刊紹介

▼『笑顔がはじけるスパーク運動療育 発達障害の子の脳をきたえる』

体を動かすことで、発達障害の子の脳と行動が改善する！「スパーク運動療育」の考え方や、家庭でできる具体的な運動や遊びを、イラストや写真とともに紹介する。「家族の心がまえ8か条」も掲載。

著：清水貴子（しみず・たかこ）

監：ジョン・J.レイティ
発行：小学館
本体価格：1350 円（税別）
ISBN：978-4-09-310849-2

▼『発達障害がある人のナラティブを聴く
「あなた」の物語から学ぶ私たちのあり方』

発達障害者の支援の現場では、当事者自身の思いや生きにくさが理解されず、支援者の側の論理が優先されることが多い。当事者自身の生きている世界を理解するために必要なことについて考察。多くの当事者の語りも紹介する。

著：山本智子（やまもと・ともこ）
発行：ミネルヴァ書房
本体価格：2500 円（税別）
ISBN：978-4-623-07678-9

▼『耳が喜ぶ補聴器選び 2016-2017 購入までの流れが丸わかり！』

自分に合った補聴器を選べるよう、補聴器のしくみや構造、各タイプの特徴などを解説。さらに、補聴器を購入する前に知っておきたいこと、補聴器購入までの流れも紹介します。最新全国補聴器販売店リスト付き。

発行：ステレオサウンド
本体価格：1500 円（税別）
ISBN：978-4-88073-379-1

▼『日本でいちばん温かい会社 働く幸せを感じて生きていますか？』

なぜ、この会社は、こんなに温かいのか？知的障害者が社員の7割を占める日本理化学工業の会長が、彼らに導かれてきた人生と会社の歩みを紹介しつつ、仕事でいちばん大切な「働く幸せ」について語る。「働く幸せ」（2009年刊）の改題改訂新装化。

著：大山泰弘（おおやま・やすひろ）
発行：WAVE 出版
本体価格：1000 円（税別）
ISBN：978-4-87290-797-1

(編集後記)

「ありがとう、言える自分、言われる自分」

この言葉は、チョークを作る会社、日本理化学工業株式会社のスローガンです。5月3日、NHK「視点・論点」に同社社長の大山隆久さんが出演されました。番組では「誰もが人の役に立ち 働く幸せを」と題して話をされましたが、工場に勤務する社員80名のうち60名が知的障害のある人たちと聞くと、どうやって作業をしているの？社員の指導は？と興味がわいてきます。

多くの方が社会に役立って「ありがとう」と言われる社会にしていくことが義務であることを、わずか10分間の中で、解説しています。詳しくは、下記のウェブサイトをご覧ください。(金丸淳子)

<http://www.nhk.or.jp/kaisetsu-blog/400/243814.html>

日本理化学工業株式会社 <http://www.rikagaku.co.jp/>

共用品推進機構公式サイト <http://www.kyoyohin.org/>

共用品ニュース (ブログ) <http://www.kyoyohin-news.org/>